

VARÓN DE DIOS

(神の人)

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
九州教区 壮年部 2022年9月号

ハレルヤ！主の御名を賛美します。

九州教区内の壮年部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。暑い夏が終わり9月になりましたが、台風11号が九州地方に影響を与えるかもしれないというニュースが流れています。被害がないように祈ります。

今回は7月に献堂式が行われた博多ニューライフ教会の特集です。

私達の教会は、カナダ人宣教師によって開拓された国際的な教会です。それは、1989年にさかのぼります。家庭集会、市民センターでの礼拝、ホテルでの礼拝という歴史を経て、ある出会いがありました。それは、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団のアメリカ人宣教師との出会いです。活動を共にするうちに、1996年、教団に正式に加入し現在に至っています。2002年には、旧会堂（博多駅南）が与えられ、本格的な宣教活動がスタートしました。2006年にはチャ



ーチスクールもスタートし、子どもから高齢者までが集う群れとして

成長していき
ました。20
20年には老
朽化した旧会
堂を売却し、
同時に新会堂



が与えられました。2021年6月にはリノベーション完了宣言をし、2022年7月18日は献堂式をとりおこなうことができました。

このように歴史を振り返ると、生きた神様が歴史をつくって下さったことを感じます。多くの祈りや献金が、思いや愛と共に捧げられました。「イエス様の愛の中で共に祈り合い、共に愛し合う教会」(ヨハネの福音書15章12節)としてますます神様に用いられますようにお祈りします。

(南里孝子)

「主は良いお方」 泉 悟史

神様は、私の人生において沢山の良いものを与えて下さいました。その中でも特に大きな出来事は、2021年10月、博多ニューライフ教会にて結婚式を挙げる事ができた事です。今回は結婚に至るまでの経緯を書かせて頂きたいと思います。

私は母がクリスチャンだった為、子供の頃から教会に通っていました。30歳を過ぎて地元京都を離れ、福岡で就職し、職場の隣にある教会へ通っていました。その教会のメンバーの方々にも本当にお世話になり、地元に住った頃の自分よりもさらに神様の恵みを知る機会を与えて頂きました。

しかし仕事があまりにも忙しく、教会での奉仕も色々させて頂く中で疲労を覚えるようになり、次第に教会から足が遠のいて行きました。

しばらくして、もう一度教会に行こうと

思い立ち、アッセンブリー京都でお世話になった先生に、「福岡でおすすめの教会は無いかな？」と電話で尋ねたところ、「そういえば、長澤（聖志）先生が福岡に赴任されましたよ。」との情報を受け、一度足を運んでみようと思い博多ニューライフ教会に行く事にしました。

私が教会に行くと、長澤先生は驚きながらも、いつもの様に素敵な笑顔で快く迎えて下さいま



した。その後、しばらく教会に通い続ける中で、先生とお話する機会があり、その中で、「泉さん、結婚は考えていますか？」と問われ、私は、「はい、まあ、良い人がいれば。」と答えました。「誰か良いと思っている人はいますか？」との問いに、私は、「久美子さんが良いと思っています。」と答えました。

私が妻の久美子と出会ったのは、初めて博多ニューライフ教会に行った時でした。その日の礼拝後、彼女から話しかけてくれましたが、とても話しやすい人だなという印象でした。2回目に教会に行った時は昼食後に話す機会があり、仕事の事や趣味など色々話す事ができました。その後も彼女の人となりや、賛美する際の素敵な笑顔に次第に惹かれていった記憶があります。

そして、長澤先生を介して、2人で会う事になりました。結婚を見据えた交際というのがお互いの条件でした。私は彼女の事を想っていましたが、彼女は付き合い始める時も非常に慎重でした。付き合い始めてから結婚に至るまでの間にも、お互いの気持ちを上手く伝えられな



った為に誤解が生じる事もありましたが、その都度祈り、話し合う中で互いの違いを尊重しあう事を学んでいきました。

2020年の12月、クリスマスにバラの花束を渡してプロポーズしたのにも関わらず、「もう少し時間が欲しい。」と言われ



たときは少しショックでしたが、その1週間後に彼女から「結婚しましょう。」との返事を貰う事ができました。その後、婚約式から結婚式までスムーズに事が運び、家族や

友人、教会のメンバーをはじめ、今まで関わってきた方々から祝福の言葉やお祝いを頂き、喜びの中で式を挙げる事ができました。これからも神様に信頼し、良い家庭を築いていきたいです。

「主のなさることは時にかなって美しい」

田口 宏一

2020年、私の母教会「博多ニューライフ教会」に何年も祈り続けても与えられなかった新会堂が与えられました。そして私は内装の仕事をしていることもあり、この改装工事の依頼を受けることになりました。

普段から県内外を問わずあちこち飛び回っているのに、日曜礼拝に参加できないこと多々もありました。依頼を受けた2020年11月も忙しく、教会の改装工事をメインに仕事を進めるのは不可能な状態だったので、他の業者を手配し、私自身は監督として管理する形を当初は考えていました。しかし、工事が始まりしばらくすると、再びコロナウイルスの



蔓延により徐々に仕事がキャンセルや延期になりはじめました。また緊急事態宣言等で、県外の工事に行けなくなり、その結果、福岡県内だけの仕事をするようになってきました。

そして12月の後半からはますます仕事が減り、気付けば、私の仕事はほぼ教会の改装工事だけになってしまいました。集中的に教会の工事をする時間が与えられたのです！通常、この規模(80坪4階建て)の工事になるとたくさんの業者が入るので、打ち合わせに時間がかかり、工事を始める前工程にもかなりの時間がかかります。特に、教会のような特殊な建物になるとなおさらです。また、発注元である教会側にも様々な意見のとりまとめ等でかなりの時間が必要になります。

しかし、今回は私が教会員だったということもあり、予めどのような設備が必要かを理解していたため、大幅にそのような時間を省くことができました。そして



何より大きかったのは、牧師先生をはじめとする役員の方々が、ほとんどの事を私に一任してくださったことでスムーズに工事を進めることができたのです。

しかも、私が毎日工事現場にいられたことで、臨機応変な進め方ができ、まだ工事中にもかかわらずオンライン礼拝やクリスマス礼拝などを捧げることもできました。そして、牧師先生にも早めに牧師館に引っ越していただくことができました。

最終的には、大幅な工事期間の短縮がで

き、予算も通常の3分の2程度におさえることができたのです。これは、この数年コロナによる世界的に困難な状況の中でも、「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」ということを実感した出来事でした。そして改装工事が終わる5月頃には、キャンセル、延期になっていた仕事は徐々に再開され、まるで神様の計画であったように私の仕事は通常へと戻っていきました。

振り返れば振り返るほど、神様がこの会堂を作るために私に与えてくださったあのぼっかりと空いた時間や、教会員みんなで、この会堂が与えられるまでに何年も祈り待ち続けた時間。この二つの事を最高のタイミングで合わせてくださったご計画は、まさに『神のなさることは時にかなって美しい』としか言いようがありません。

そして工事中はほとんど一人だったこともあり、大音量で賛美し祈りながらこの主の宮を作らせて頂いたことは私にとって大きな祝福でした。しかも普通のオフィスビルであったこの建物を、主の宮に変えてくださった素晴らしい奇跡の一部に用いてくださったことを本当に感謝します！そして、すべての栄光を神様にお捧げします！



広報誌の名前は「**VARON DE DIOS**」(バロン デ ディオス)です。これはスペイン語で「**神の人**」という意味です。

九州教区 壮年部担当 松尾 敬文
福岡市東区水谷 1-14-3
福岡キリスト教会 092-681-5501